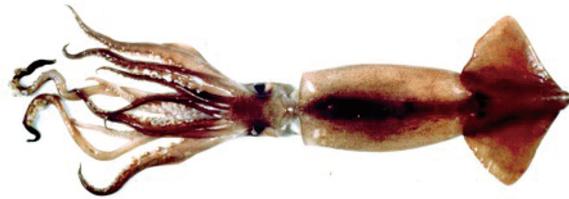


# アルゼンチンマツイカ 南西大西洋

Argentine Shortfin Squid, *Illex argentinus*



**管理・関係機関**

南大西洋漁業委員会 (SAFC)

**漁業の特徴**

主要な漁業国は、アルゼンチン、台湾、中国、韓国等である。1970 年代に沿岸国のアルゼンチン等によって年間数千トンが漁獲されていたが、1980 年代に入りポーランド、日本等の遠洋漁業国のトロール船による本格的な操業が開始された。1980 年代の半ばに日本、台湾及び韓国のいか釣り漁船が操業を開始した。現在でもいか釣り漁船による漁獲がほとんどである。本種の盛漁期は南半球の夏から秋 (2～6 月) で、漁場は季節とともに南北に移動する。

**最近一年間の動き**

2013 年漁期における我が国いか釣り漁船は、2007 年からの南西大西洋からの完全撤退によって、引き続きアルゼンチン EEZ 内、公海域及び英国領フォークランド FICZ 海域 (暫定保護海域) への入漁はなかった。2004 年には資源量が枯渇寸前にまで減少したが、2005 年から急速に回復に向かった。2008 年はアルゼンチン EEZ 及び英国領フォークランド FICZ 海域内での漁獲量は 30 万トンを超え、前年に引き続き豊漁となった。しかし、2009 年漁期には前兆なしに資源水準が急激に悪化した。2010 年以降漁獲量は増加し、資源は高水準にある。

**漁獲の動向**

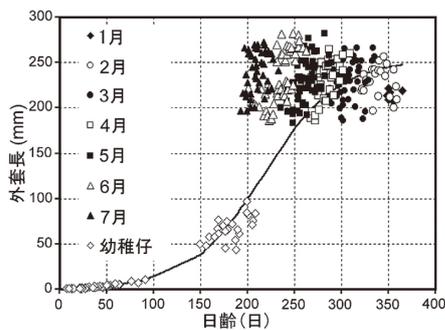
本種の総漁獲量は 1980 年代後半から増加し、90 万トン近くに達するような年を除くと、近年まで 40～60 万トン前後で安定していた。日本の漁獲量は、1990 年代は約 10 万トンで安定する一方、沿岸国のアルゼンチンの漁獲量は増加し 20 万トン前後となった。2004 年には総漁獲量は約 7 万トンに低下したが、2006 年に急増し、それ以降、資源は高水準を保ち公海を除くアルゼンチン EEZ 及びフォークランド FICZ 内での漁獲量は約 30 万トンを超えた。2009 年に再び漁獲量は 7.3 万トンと激減したが、2010 年以降は増加傾向にある。日本は 2007 年からのいか釣り漁船の完全撤退により、2013 年も漁獲はなかった。

**生物学的特性**

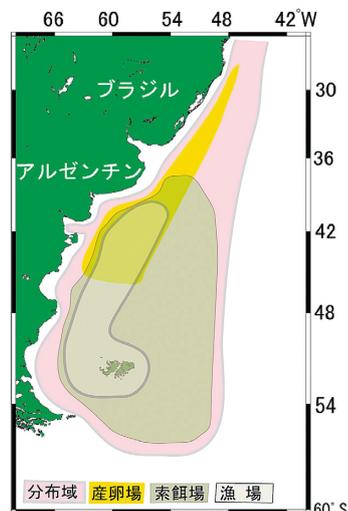
- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 8～12 か月
- 産卵期・産卵場：1 年中；主に秋から冬、アルゼンチン沖大陸棚斜面域
- 索餌場：アルゼンチン沖大陸棚上
- 食性：中深層性魚類、オキアミ類、端脚類
- 捕食者：メルルーサ (幼イカ期)、海鳥など

**利用・用途**

するめ、塩辛、乾燥珍味、まぐろはえ縄の餌等



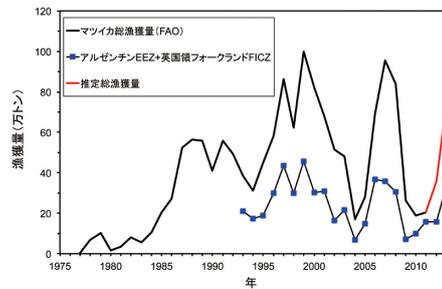
夏季産卵群の雌の成長曲線。各点は生まれ月及び幼稚仔期 (◇) を示す (Brunetti *et al.*1998a より)



アルゼンチンマツイカの分布図

### 資源状態

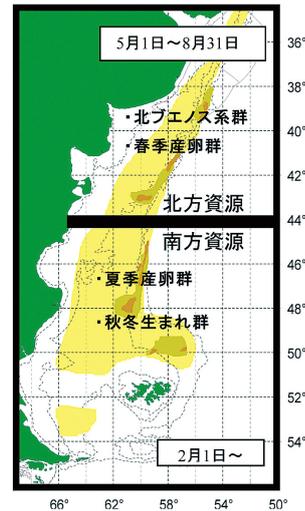
1994 年から 1996 年にかけて低水準となったが、その後、資源水準は回復に転じ、1999 年にピークに達した。しかし、翌年には再び資源量は急激に減少し、2004 年には資源は枯渇の危機に瀕した。2006 年から徐々に加入量は増加を始め、2007 年、2008 年ともに再生産関係は親イカ量及び翌年加入量ともに高い水準域にあったが、2009 年に一転して資源水準は急激に低下し、加入量は前年の 13% まで落ち込んだ。1993～2012 年の 20 年間のアルゼンチン EEZ 及び英国領フォークランド FICZ 内での漁獲量の範囲より、2013 年の資源水準は 33.4 万トンと高位であり、資源の動向は増加傾向と判断した。



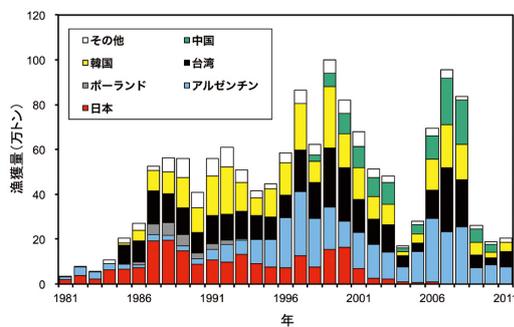
アルゼンチン EEZ 及び英国領フォークランド FICZ 内での漁獲量と総漁獲量の変遷

### 管理方策

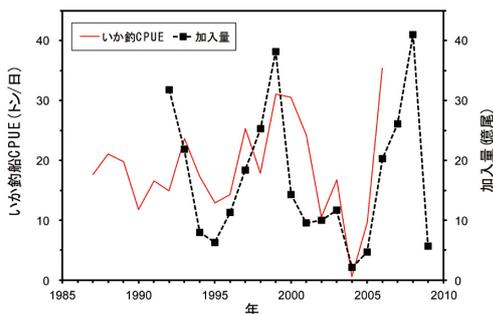
本資源の大部分はアルゼンチン EEZ 及び英国領フォークランド FICZ 海域内に分布し、管理上は便宜的に南緯 44 度線で区切って、南方資源と北方資源に分けて異なる管理方策をとっている。北方資源（南緯 44 度線より北）は、実質アルゼンチンのみが管理し、入漁隻数制限と漁期制限（5 月 1 日～8 月 31 日まで）による努力量管理方策を実施している。一方、南方資源は、SAFC に基づき英ア二国が共同で、入漁隻数制限と解禁日（2 月 1 日）制限による努力量管理のほかに、再生産管理を実施している。再生産管理とは、本種が単年性（年魚）であり、世代が重複することがないことから、ある年の資源はすべて前年の産卵親イカから生まれてくる再生産関係がある程度成立すると仮定し、来漁期の資源に回す親を一定量確保する施策である。南方資源では相対逃避率（目標値 40%）に加え、絶対逃避量（4 万トン）を設定し、漁獲量を管理している。



本種の季節発生群（系群）と南緯 44 度を境とした資源分割管理



各国のアルゼンチンマツイカ漁獲量の変遷 (1981～2011 年) (FAO 2013)



日本のいか釣船の CPUE（トン／日）の経年変化とアルゼンチン調査船による秋冬生まれ群（南パタゴニア系群）の加入量（トン）の経年変化

### 資源評価まとめ

- 南方資源の評価機関は SAFC が実施
- 漁期前の着底トロールによる生物量調査及び Leslie-DeLury 法により評価。
- 資源水準は高位、資源は増加傾向。

### 資源管理方策まとめ

- 南北資源ともに基本的には努力量管理方策維持。
- 南方資源は、相対逃避率 40% 及び絶対逃避量 4 万トンを設定。
- 前年の漁獲実績による入漁隻数の制限。
- 解禁日と禁漁期（終漁日）の設定。

### アルゼンチンマツイカ（南西大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	高位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (最近の 5 年間)	19.0～95.5 万トン 平均: 49.0 万トン (2007～2011 年)
我が国の漁獲量 (最近の 5 年間)	0 トン 平均: 0 トン (2007～2011 年)